２０２４年度北海道大谷学園連合会
高等学校相互評価報告書

対象校　　北海道大谷室蘭高等学校

HOKKAIDOOTANI
MURORAN HIGH SCHOOL

２０２５年３月３１日

北海道大谷学園連合会相互評価委員会

北海道大谷学園連合会評価委員会

主　　査	中西　猛雄（北海道教区大谷学園委員会委員）
主査代理	土山　泰弘（北海道教区大谷学園委員会委員）
委　　員	寺澤　三郎（所長推薦・第１３組教證寺住職）
委　　員	丸山　政秀（函館大谷高等学校 校長）
委　　員	竹本　将人（北海道大谷室蘭高等学校 校長）
委　　員	木村　泰優（稚内大谷高等学校 教頭）
委　　員	佐藤　健一（函館大谷高等学校 事務長）

北海道大谷室蘭高等学校の概要

設 置 者	学校法人　望洋大谷学園
理事長名	西﨑　習一
校 長 名	竹本　将人
開設年月日	１９５８（昭和３３）年１月
所 在 地	北海道室蘭市八丁平３丁目１番１号
設置学科	普通科
入学定員	２２５名（総定員６７５名）
教職員数	総数　４９名 （常勤　３６名　非常勤　１３名）

調査結果

Ⅰ　建学の精神・教育理念、教育目標・学校目標

2012 年度より室蘭大谷高等学校、登別大谷高等学校の統合校として開校。その際、各学園が寄付行為目的条項において表記が義務付けられている「宗祖親鸞聖人」「本願念仏」という言葉を建学の精神・教育目標の中に用いることにより、改めて学校教育現場において認識されていくことを目的としたそうである。また、学校教育の目標を「宗教教育の実践」とすることとしたそうであるが、時代背景に影響されることなく建学の精神を下支えとした真の人間教育を行うべく進もうとする決意の表れを強く感じる。

Ⅱ　分掌

【教育課程・学習指導（教務）】

教務関係では、普通科を難関進路系と文理系の 2 展開でカリキュラムを構成している。クラブ活動にも配慮する形で 7 時間授業制を導入していないが、学習の補填を株式会社リクルートのスタディサプリの活用で補う等、生徒の様々な活動を保障しつ工夫した取り組みが印象的である。

【生徒指導・部活動（生徒指導・生徒会）】

生徒指導・生徒会関係では、以前と違い生徒指導に手を焼くことが無くなりつつあるということで、生徒の質の変化もあるとは思うが、教職員の皆様の行き届いた生徒指導の賜物であると感じる。また、携帯電話の校内持ち込みに関し、特にルールを設けてはいないそうであるが、正しい使い方とは何かとうことを考えさせているとのことで、ただ規制するのではなくあえて規制しない状況での指導も効果的であろう。

【進路指導】

進路指導関係では、模擬試験の振り返りでスタディサプリを活用。講習は土曜日の午前中及び長期休業中に実施し、専任教員が担当しているが、その分平素の授業時数を減じたりするなど、勤務状況に配慮している部分が評価できる。

【保健管理・安全管理・個人情報管理】

保健関係では、教育相談員が配置されていないことから、養護教諭が中心となり生徒の悩みの相談に応じているが、医師の診断（精神的ケア）が必要とされるだろうと思われるものについては教頭が判断し外部と連携を取りながら対処しているということで、自校で対応できるものとそうではないものの区別をしながら進めている様子が伺える。

【入試・生徒募集】

入試関係では、対策センター主導のもと自前で作問を行い、公立高校の内容を意識したものとなっている。また、ニュースレター等の中学生向けの広報誌（A4 1 枚程度のもの）を教頭先生が作成しているが、中学生に興味を持たせられるような工夫が随所になされている。

Ⅲ　財務

収入について、少子化の影響から今後学生生徒納付金収入の大きな増加が見込まれないとの予測より、入学検定料の改定や就学支援金制度拡充に伴う教育充実費・施設整備資金の授業料組み入れ、令和 7 年度より開設予定の通信制課程における学生生徒納付金収入による財源確保といった様々な努力が伺える。

以　上